



食欲魔人、暁に死す ～「四の五の言わんとこれ食べて」…4 匹目～

vol.4

河原医院 河原 邦彦 (平成8年入局)

「目に青葉、山ホトトギス、初鯉」

秋の“戻りカツオ”も脂がのってうまいのですが、やはり息吹を感じる初鯉にはかないません。ってなことで魚屋で刺身用のカツオを一本手に入れ、おうちで三枚に下ろし、庭で薫を焼いて(薫はホームセンターで園芸用の敷き薫として売っている)自家製カツオのたたきが完成! 昼間っからビールを一杯。ゴールデンウィークっていいね!!

ふと右手に目を落とすとそこには見慣れた黄色い封筒が。「同門会からやね」裏返すと宛名が手書き……まさか……(ここでBGMはダースベーダーのテーマ)

この原稿依頼でした(汗)

いやいやもうネタないし、辺境の地(奈良)に移り住んでからそうそう出かけられないし、そろそろマンネリ化(自分の中で)してきてるし、そもそも格調高い同門会報にこんな下衆な文面が掲載されているってことはどうなんだ? これ、他大学の教室にも送られているのだろ? 教室の品位に関わるんじゃないか? うわー恥ずかし! などとぐちゃぐちゃ言いながら……最後です。今回で最後と行ってください……なんて希望しつつ一軒目です。



今回はちょっと変わったお店を紹介したいと思います。何が変わっているかと申しますと……“場所が分かりにくい”この一言に尽きます。お店の名前は「酒肆門(しゅし もん)」です。正直いいまして地図を見てもまずわかりません。場所ですがキタのお初天神の境内を南東の方向に歩くと小さな参門があります(深夜は閉鎖されてます)。そこを出てすぐ右に黄色い地に黒字で“門”と一文字看板があります。ただ、見渡せど入り口がありません。看板を指さしながらぐるっと“回れ右”してみると何の変哲もない木の板が……入り口です(笑)。開いてすぐ前にある階段を上がってください、二階がお



その絵描きさんに描いていただいた小生の似顔絵です(似てます?)



名物サバサンドです。

店になっております。で、店内を見渡すと壁一面に“似顔絵が”ほぼ落書き状態で描かれています。聞きますとある画家さんが時々呑みに来られるそうですが、その際店内にいたお客さんのうち描きたくなった人の似顔絵を書き残して行かれるそうです(店主公認らしい)。で、ここでの逸品は(店の定番)サバサンドです。しめ鯖をトーストしたパンで挟んだ代物ですが、これがなかなかいい感じでして。初めは「なんじゃろか?」と興味先行でしたが、食してみるとこれがなかなかの美味なのです。一度ご賞味ください。またこの店は日本酒と酒のあても豊富です。早い時間はなかなか予約が取りづらいのですが、3回転目を狙うと空いていることもありますよ。



酒肆(しゅし) 門

大阪市北区曽根崎 2-5-37

TEL. 06-6364-3573



それでは場所が分かりにくいシリーズとしてもう一軒、中華料理「福龍園」です。場所は南森町から徒歩数分、大阪天満宮の裏手にあります。印刷工場やモータープールが奔めく通りの「こんなところ?」と思わせる場所にその店はあります。

間口からして“狭い!”中に入ってさらに狭い! トイレに至ってはなぜここまで狭く作れる?? と思わせる



ぐらい狭い店です……(汗) カウンターに5席、4人掛けテーブル二つ、壁に据え付け二人掛けテーブル一つ……これだけです。15人で貸切り状態……うーん狭い! 店の奥では完全な白髪で前頭部が禿げ上がった年齢不詳の親父が一人で鍋を振ってます。給仕される伯母様は奥様ではないらしい……どういったご関係なのでしょう? とにかく2人で切り盛りされています。一応メニューはありますが、基本的に壁にかかった小さな黒板を見ながら注文するスタイルです。名物料理として、今では大阪でも珍しくなくなった(陳建民直伝らしい)四川風麻婆豆腐が有名らしいです。山椒と唐辛子の量については好みを伝えてもらうと調整してくれます。この店のお勧めはビールのあてのザーサイと、皮蛋豆腐です。小生は別に常連というわけでもないですが、何度か来店していると店主のほうから「こんなん食べはりますか?」と黒板にないメニューを勧められるようになりました(当然値段は分からないので怖いし、店主には確認があるようなのですが、どうも実験的な要素が多く含まれていてやや不安)。混んでると不愛想に見える店主ですが、時間に余裕があるとよくしゃべってくれるキャラのたった親父です。一度会いに行ってください。

福龍園

大阪府大阪市北区天満 4-16-8 ハイツ天満宮 1F

TEL. 06-6353-7224



気の向くまま、ダラダラと書き綴った駄文にお付き合いいただきありがとうございます。この投稿が皆様のご貴重なお食事タイムにお店選択の一助になれば幸いです。では皆様また夜のネオン街でお会いしましょう。(次回は無いんでないかな?)

いや、ありますし。(編集部 談)